



# 常緑キリンソウ袋方式 年間管理マニュアル

常緑キリンソウ普及協会  
株式会社緑化計画研究所

## 【目次】

1. 常緑キリンソウ袋方式年間管理マニュアル	1
2. 年間管理スケジュール（概要）	1
3. 常緑キリンソウの季節による変化	2
4. 常緑キリンソウ袋方式：管理作業の注意点	3
5. 常緑キリンソウ袋方式：屋上緑化への雑草侵入	4
6. 常緑キリンソウが枯れた状態	4
7. 見落とし厳禁：屋上緑化と建物を守るドレイン清掃	5
8. 【第1回：2月下旬～3月上旬（春の管理）】	6
9. 【第2回：5月中旬～6月上旬（成長期）】	6
10. 【第3回：9月上旬～中旬（秋の管理）】	7
11. 【第4回：11月下旬～12月上旬（冬準備）】	7
12. 屋上緑化で除草作業が重要な理由	8
13. 屋上緑化で除草作業が必要な具体的な理由	9
14. レイン周りの清掃が必要な理由	10
15. 肥料の種類と特徴を分かりやすく解説！	11
16. 常緑キリンソウ袋方式への肥料のあげ方：簡単ガイド	13
17. 肥料散布の重要ポイントと避けるべき時期	14
18. Q&A集（常緑キリンソウ袋方式）	15
19. 最後に（問合せ先）	17

# 1.常緑キリンソウ袋方式 年間管理マニュアル

このマニュアルは、暑さ・寒さ・乾燥に強い常緑キリンソウ（トットリフジタ 1 号：品種登録番号 第 15866 号）を使用した、ローメンテナンス型の緑化システム「常緑キリンソウ袋方式」の年間管理方法をまとめたものです。

本システムは、雑草の発生を抑え、土壌の流出を防ぐ構造となっており、従来の屋上緑化に比べて管理の手間が少ないのが特長です。

ただし、植物は生き物です。完全な「メンテナンスフリー」ではなく、適切な管理を行うことで、より健全で美しい状態を維持することができます。

## 管理の基本ポイント

### ・生育状態の確認

毎回、植物全体をよく観察し、色や密度、異変がないかをチェックします。

### ・写真撮影による記録

定期的に写真を撮ることで、年間を通じた変化や異常の早期発見につながります。

### ・ドレイン周りの清掃

排水口の詰まりを防ぐことは、根腐れ予防と建物保護に直結する重要な管理項目です。

### ・除草作業

風や鳥によって雑草の種子が運ばれてくることがあります。雑草は根が浅く簡単に抜けるため、見つけたら早めに除去しましょう。

## ご理解いただきたいこと

常緑キリンソウ袋方式は、暑さ・寒さ・乾燥・多湿に強く、非常に丈夫な植物を使用しています。また、袋構造により雑草の侵入や土壌の流出も抑えられています。

それでも、雑草除去やごくまれな補植などの「最低限の手入れ」は必要です。このシステムは、「手間のかからない＝ローメンテナンス」緑化であり、完全な管理不要ではないことをご理解ください。

下記の年間スケジュールに沿って管理を行うことで、常緑キリンソウの健康な状態とより美しい景観を長く保つことができます。

## 2.年間管理スケジュール（概要）

回数	月/時期	主な管理内容	備考
1	2月下旬～3月上旬	生育確認、肥料施肥、除草、補植、ドレイン点検、撮影	生長への準備。
2	5月中旬～6月上旬	生育確認、重点除草、補植、ドレイン点検、撮影	成長期。雑草の勢いが強い。
3	9月上旬～中旬	生育確認、除草、ドレイン点検、撮影	夏のダメージ確認。
4	11月下旬～12月上旬	生育確認、除草、ドレイン点検、撮影、年間報告	枯死株の補植は春。

### 3.常緑キリンソウの季節による変化



2023年4月20日（施工後2カ月）



2023年7月13日（施工後5カ月）



2023年11月29日（新芽との入替り）



2023年11月29日（新芽との入替り拡大写真）



2023年12月21日



2023年12月21日（拡大写真）



2024年1月17日



2024年2月27日

## 4.常緑キリンソウ袋方式：管理作業の注意点

常緑キリンソウ袋方式はメンテナンスの手間が少ないシステムですが、より効果的で長期的な維持のために、以下の点に注意して作業を行きましょう。

### 1. 「ローメンテナンス」でも「ノーメンテナンス」ではない！

常緑キリンソウは丈夫ですが、全く手入れが不要というわけではありません。年間 4 回の定期的な確認と作業をスケジュール通りに行うことで、健全な状態を保ち、トラブルを未然に防ぐことができます。特に、少しの「サボリ」が後の大きな手間につながることを意識し、早期発見・早期対応を心がけましょう。

### 2. 除草作業は「早め」が肝心！

雑草の繁殖力は非常に強いです（1 株から数万粒の種子、風や鳥による拡散、強い根、日光で大量発芽）。袋と袋の隙間に生える雑草は、初期段階では土が少ないため根張りが弱く、手で簡単に抜けます。しかし、放置すると根が張って抜きにくくなるだけでなく、大量の種子をまき散らして周囲にどんどん広がってしまいます。

### 3. ドレイン（排水口）周りの清掃は「命綱」！

ドレインの詰まりは、屋上緑化最大のトラブル要因の一つです。枯れ葉、土砂、そして雑草の根や茎などが詰まると、水はけが悪くなり、以下のような深刻な問題を引き起こします。特に、台風や強風時には、周囲から飛来するゴミ（ビニール、紙くずなど）や枯れ葉、雑草などがドレインに集中し、一気に排水機能が失われることがあります。強風・大雨が予想される前や、通過後には必ず確認・清掃を行きましょう。

### 4. 肥料の与えすぎに注意（施肥）

2 月下旬～3 月上旬に肥料を散布しますが、量を守ることが重要です。過剰な施肥は、肥料焼け（植物が枯れる）の原因になるだけでなく、土壤環境のバランスを崩す可能性があります。使用する肥料は（チッソ 8、リンサン 8、カリ 8）以下の肥料を使用します。

### 5. 枯死株の補植は適切な時期に

枯死株があった場合の補植は、基本的に生育が活発になる春（3 月～5 月）が最適です。第 4 回（11 月下旬～12 月上旬）でも枯死株の確認がありますが、この時期の補植は地域によっては寒さで根付きにくい場合があります。無理に冬前に行わず、翌春に持ち越すことも検討しましょう。

### 6. 定期的な観察と記録

各回の「生育状態の確認」を丁寧に行い、変化や異常（枯れ、変色、病害虫の兆候など）にいち早く気づくことが大切です。写真撮影だけでなく、簡単なメモ（日付、天気、発見した雑草の種類、補植の有無など）を残すことで、年間の変化や問題の原因究明に役立ちます。

## 5.常緑キリンソウ袋方式：屋上緑化への雑草侵入

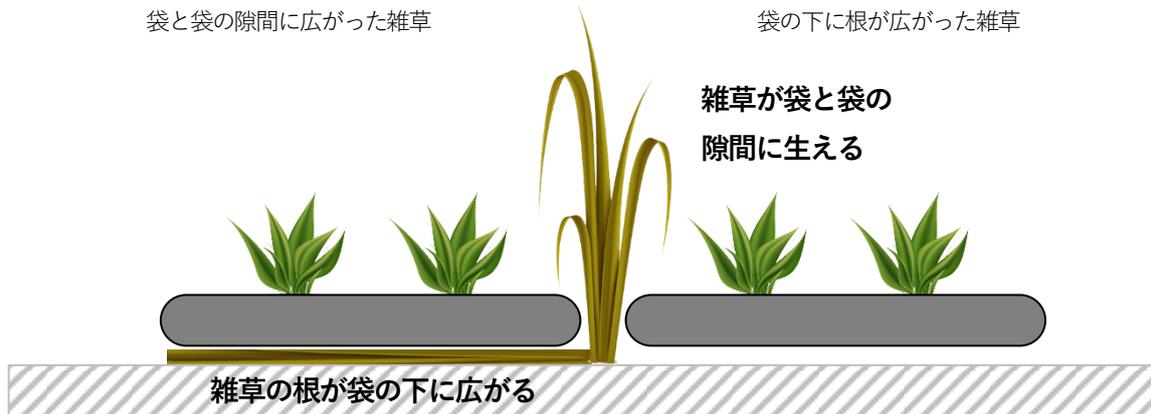
雑草は風や鳥に運ばれて侵入し、特に袋と袋の隙間には土がなくても、運ばれた種子が発芽することがあります。下の写真は、実際にその隙間に雑草が侵入した事例です。放置すると一気に広がるため、早めの除草が大切です。



袋と袋の隙間に広がった雑草



袋の下に根が広がった雑草



## 6.常緑キリンソウが枯れた状態

左の写真に写っている常緑キリンソウは、茎が非常に細く、全体的に茶色く変色しています。このような状態はすでに枯れてしまっている（枯死している）状態です。一方、右の写真のように、葉が一部枯れていても茎がしっかり太く、株元に新芽が見えている場合は、まだ生きており、時間とともに再び緑が戻ってきます。



常緑キリンソウの茎が細くなり全体が枯れた状態



茎が太く新芽が出た状態は枯死していない

## 7.見落とし厳禁：屋上緑化と建物を守るドレイン清掃

ドレイン周りの清掃は、屋上緑化において非常に重要な管理作業です。

これは単なる手入れではなく、緑化システムの機能を維持し、建物や植物を守るために欠かせない作業です。

下の写真は、一般的な屋上緑化でドレイン清掃が行われていない状態と、排水不良によって水がたまってしまった状態、それぞれの事例を示しています。

このような状況は、根腐れや建物内部への漏水などの原因となる恐れがあります。

特に台風前や強風が予想される時期には、事前にドレイン周辺の点検と清掃を徹底することが重要です。



ドレインが刈取った植物で詰まった状態



ドレイン周りの雑草が生えている状態



ドレインが刈取った植物で詰まった状態



排水がうまくできず水がたまった状態

## 8. 【第1回：2月下旬～3月上旬（春の管理）】

常緑キリンソウが休眠から覚め、活動を始める大切な時期です。

### 1. 生育状態の確認

- ・冬を越した株が元気か、枯れている部分がないかを確認します。
- ・新しい芽が出始めているか、葉の色は良いかなども見ましょう。

### 2. 肥料の施肥

- ・植物の生育を促すため、肥料を袋の土の上に均一に撒きます。
- ・施肥後は、肥料が土に馴染むように軽く水やりをすると効果的です。

### 3. 除草

- ・冬の間を生えた雑草を抜き取ります。
- ・枯死株の有無確認:
- ・枯れてしまった株がないか確認します。
- ・必要に応じて、3月中に新しい株を補植（植え替え）します。

### 4. ドレイン周りの確認と清掃

- ・水抜き穴（ドレイン）が土や枯れ葉で詰まっていないか確認し、詰まっていればきれいにします。

### 5. 写真撮影

- ・現在の状態を記録しておきましょう。

## 9. 【第2回：5月中旬～6月上旬（成長期）】

常緑キリンソウが活発に成長する時期です。雑草も元気に育つため、特に注意が必要です。

### 1. 生育状態の確認

- ・株が大きく成長しているか、つぼみが確認できるかなどを見ます。

### 2. 雑草の繁茂状況確認と除草（重点項目）

- ・この時期は雑草が非常に多く生えるため、特に念入りに除草を行きましょう。
- ・雑草が大きくなる前にこまめに抜き取るのがポイントです。

### 3. 枯死株の有無確認

- ・生育不良や病気などで枯れてしまった株がないか確認します。
- ・必要に応じて、5月中に新しい株を補植（植え替え）します。

### 4. ドレイン周りの確認と清掃

- ・水はけを確保するため、ドレイン周りを再度確認し、清掃します。

### 5. 写真撮影

- ・成長中の様子を記録します。

## 10. 【第3回：9月上旬～中旬（秋の管理）】

夏の暑さを乗り越え、開花を終えた後の管理です。冬に向けての準備も始まります。

### 1. 生育状態の確認

- ・夏の間の生育状況を確認します。葉の色や株の密度などをチェックしましょう。

### 2. 枯死株の有無確認

- ・夏の高温や乾燥で傷んだり枯れたりした株がないか確認します。

### 3. 除草

- ・秋に生える雑草を抜き取ります。

### 4. ドレイン周りの確認と清掃

- ・落ち葉などでドレインが詰まっていないか確認し、きれいにします。

### 5. 写真撮影

- ・状態を記録しておきましょう。

## 11. 【第4回：11月下旬～12月上旬（冬準備）】

常緑キリンソウが新芽と入替る時期の最終チェックです。

### 1. 生育状態の確認

- ・新芽が出ている状態かを確認します。

### 2. 枯死株の有無確認

- ・枯れてしまった株がないか確認します。

### 3. ドレイン周りの確認と清掃

- ・落ち葉などでドレインが詰まらないよう、念入りに清掃します。

### 4. 写真撮影

- ・年内の最後の記録として撮影します。

### 5. 年間管理報告書の作成（必要に応じて）

- ・その年の管理内容、生育状況、問題点などをまとめておくことで、次年度の管理計画に役立ちます。

## 12.屋上緑化で除草作業が重要な理由

屋上緑化において除草作業は、単に見た目をきれいに保つだけでなく、植物の健全な生育と建物の保護のために非常に重要です。

### なぜ、屋上緑化に雑草が生えるの？

常緑キリンソウ袋方式は、防草シートでできており、雑草の侵入をしっかりと防ぐ機能を持っています。しかし、雑草は非常に生命力が強く、その種子は風に乗って飛んできたり、鳥が運んできたりするため、どこからでも侵入する可能性があります。

特に、袋と袋の隙間には土がなくても、そこに運ばれてきた種子が発芽することがあります。

### 雑草が「怒涛の如く」増える3つの理由

ちょっと除草を怠ると、あっという間に雑草に覆われてしまうのは、雑草が持つ驚異的な特性と、屋上緑化の環境が雑草の生育に適しているからです。

#### 1. 驚異的な種の量と拡散力

雑草は、1つの株から数千～数万粒もの大量の種子をつけ、中には50万粒もの種をまく種類もあります。これらの種子の約80%が発芽すると言われています。さらに、種子は風に乗って遠くまで飛ぶことや鳥が食べた後にフンとして排出されることで、広い範囲に拡散されます。このように、雑草は圧倒的な「数」と「移動能力」で増殖する戦略を持っています。

#### 2. 日光が大好き！発芽に最適な環境

雑草の多くは、日光の光を浴びることを発芽の条件としています。屋上緑化の場所は、土壌があり、日当たりも抜群なので、まさに雑草が芽を出すには理想的な環境がそろっています。日光をたっぷり浴びて、勢いよく成長していきます。

#### 3. 諦めない強い根の生命力

雑草がしぶとい最後の理由は、その根の強さにあります。屋上緑化の袋の隙間に生える雑草は、土壌が少ないため根張りが比較的弱く、簡単に手で抜くことができます。しかし、そのまま放置してしまうと雑草は広がり、やがて太い根を張る種類も出てきて抜きにくくなります。多年生雑草の場合、冬に地上部が枯れても根が残り、暖かい季節になると根から再び勢いよく成長し始めるため、毎年増え続けてしまいます。

## 13.屋上緑化で除草作業が必要な具体的な理由

これらの雑草の特性を踏まえると、屋上緑化での除草作業は以下の理由から不可欠です。

### 1. 常緑キリンソウの生育保護

雑草は常緑キリンソウの栄養、水分、日光を奪い、生育を妨げます。放置すると、常緑キリンソウが弱ったり枯れたりして、本来の緑化効果が失われてしまいます。

### 2. 見た目の美観維持

雑草が繁茂すると、せっかくの緑化スペースが荒れた印象になり、都市景観や癒やしの効果が損なわれます。

### 3. 排水機能の確保と浸水防止

枯れた雑草や根、茎が屋上の排水口（ドレイン）に詰まることがあります。特に台風や強風時には、飛来物と合わせて大量の雑草がドレインに流れ込み、排水機能を急激に低下させます。これにより、屋上に大量の水が溜まり、常緑キリンソウの根腐れや、建物内部への浸水・漏水といった深刻な被害につながるリスクが高まります。

### 4. 病害虫の発生抑制

雑草が密集すると風通しが悪くなり、湿気がこもりやすくなります。これは、常緑キリンソウに病気や害虫が広がる原因となるため、除草は予防にも繋がります。

このように、屋上緑化における除草作業は、見た目の問題だけでなく、機能維持と建物の安全性確保に直結する重要な管理作業なのです。雑草の根張りが弱い初期段階でのこまめな除草が、健全で美しい屋上緑化を長く保つ鍵となります。

## 14.ドレイン周りの清掃が必要な理由

屋上緑化エリアのドレイン（排水口）周りを定期的に清掃することは、以下の理由から不可欠です。

### 1. 排水機能の維持と浸水・漏水の防止

ドレインは、屋上に降った雨水を効率よく排出するための重要な役割を担っています。ここが詰まると、以下の問題が発生します。

#### ・水たまりの発生

排水が滞ることで、屋上部分に大量の水が溜まります。これにより、植物の根腐れの原因となるだけでなく、屋上構造への負担も増大します。

#### ・浸水・漏水のリスク

水位が上昇すると、防水層の隙間や劣化部分から建物内部への浸水や漏水を引き起こす可能性が高まります。これは建物の構造に深刻なダメージを与えかねません。

#### ・コケや藻の発生

水が滞留すると、コケや藻が発生しやすくなり、滑りやすくなったり、美観を損ねたりします。

### 2. 強風・台風時のリスク増大（特に重要！）

普段の雨でも詰まる可能性はありますが、台風や強風時にはそのリスクが格段に高まります。

#### ・飛来物の堆積

強風により、枯れ葉、木の枝、土砂、さらには周辺から飛んできたビニール片や紙くずなどの様々なゴミがドレイン周りに集中しやすくなります。

#### ・急激な排水能力の低下

大量の雨と飛来物が同時にドレインに流れ込むことで、短時間で排水口が完全に塞がれてしまうことがあります。これにより、瞬時に屋上がプールのような状態になり、上記で述べた浸水・漏水のリスクが急激に高まるのです。

### 3. 植物の健全な育成

#### ・根腐れの防止

ドレインが正常に機能し、余分な水が排出されることで、土壌が過湿になるのを防ぎ、常緑キリンソウをはじめとする植物の根腐れを防ぎます。

#### ・病害の抑制

排水不良による過湿状態は、カビなどの病原菌が繁殖しやすい環境を作り出します。適切な排水は、植物を病害から守るためにも重要です。

### まとめ

ドレイン周りの清掃は、単なる手入れではなく、屋上緑化システムの機能維持、建物の保護、そして植物の健康を保つための必須の作業と言えます。特に、台風シーズン前や強風が予想される際には、入念な点検と清掃を心がけましょう。

## 15.肥料の種類と特徴を分かりやすく解説！

植物を元気に育てるために欠かせない肥料には、色々な種類があります。ここでは、肥料の基本的な分類と、それぞれの特徴、そしてちょっと紛らわしい言葉の意味を分かりやすく解説します。

### 肥料の基本！「有機質肥料」と「無機質肥料（化学肥料）」

肥料は、その原料によって大きく2つに分けられます。

#### ・有機質肥料（動物・植物由来）

・動物のフンや骨粉、油かす、植物の葉や茎など、生き物からできた原料を使っています。

#### ・無機質肥料（鉱物・化学合成由来）

・土の中にある鉱物や、工場で化学的に作られた原料を使っています。一般的には「化学肥料」と呼ばれることが多いです。

### 勘違いしやすい？「化成肥料」と「有機化成肥料」

「化学肥料」と「化成肥料」、言葉が似ていてややこしいですね。これらは、原料と製造方法で区別されます。

#### ・化成肥料とは？（製造方法の分類）

- ・2種類以上の肥料原料を混ぜ合わせ、さらに化学的・物理的な加工（粒状に固めるなど）をして作られた肥料のことです。
- ・つまり、原料が有機質でも無機質でも、工場で粒状などに加工されていれば「化成肥料」と呼びます。ポーロやラムネのような形の肥料をイメージすると分かりやすいでしょう。

#### ・配合肥料とは？

・こちらは、2種類以上の原料をただ混ぜ合わせただけの肥料です。加工はされていません。

#### ・有機化成肥料・有機配合肥料とは？

・「化成肥料」や「配合肥料」の中でも、原料に有機質肥料を使っているものを区別するために、「有機化成肥料」や「有機配合肥料」と呼びます。

## 2種類の肥料の「効き方」と「役割」

有機質肥料と化学肥料では、植物への効き方や土への影響が大きく異なります。

### 1. 有機質肥料

#### ・特徴・役割:

- ・ゆっくり長く効く: 有機質肥料の成分は、土の中の微生物が分解することで初めて植物が吸収できる形になります。そのため、効果が現れるまでに時間がかかりますが、その分、効果が長く続きます。
- ・土壌改良効果: 微生物が活発に活動することで、土がフカフカになり（団粒構造）、水はけや水もち、空気の通りが良い「育てやすい土」へと改善されます。
- ・家庭菜園の元肥に最適: じっくり効いて土を良くするため、最初に土に混ぜ込む「元肥（もとごえ）」として使うのに向いています。

・**注意点:**

- ・効果の調整が難しい: 微生物の働き具合によって効果の出方が変わるため、量の調整が難しいことがあります。
- ・臭い: 原料由来の独特な臭いがあったり、分解時にガスが発生したりして臭いがきつく感じる場合があります。マンションなどで使う際は注意しましょう。

## 2. 化学肥料（無機質肥料）

・**特徴・役割:**

- ・早く効く: 植物がすぐに吸収できる形で成分が含まれているため、微生物の分解を待つ必要がありません。
- ・速効性、持続性は低い: 効果がすぐに現れる反面、有機質肥料に比べて効果の持続性は短い傾向にあります。
- ・臭いが少ない: 微生物による分解がないため、基本的に嫌な臭いやガスの発生はありません。

・**注意点:**

- ・土壌への影響: 長期間化学肥料ばかりを使っていると、土が硬く締まり、土本来の緩衝作用（土の状態を一定に保つ働き）が弱まる場合があります。
- ・肥料焼け: 必要以上に多く与えすぎると、「肥料焼け」といって植物の根の機能が壊れて、しおれたり枯れたりすることがあります。

## 16.常緑キリンソウ袋方式への肥料のあげ方：簡単ガイド

常緑キリンソウ袋方式で肥料を与えるのはとても簡単です。特別な道具も必要なく、誰でも手軽に行えます。

### 肥料の散布方法

#### 1. ファスナーを開ける必要なし！

緑キリンソウ袋方式では、わざわざファスナーを開けて肥料を中に入れる必要はありません。

#### 2. 全体に「薄く、まんべんなく」振りかける

常緑キリンソウの株が密生していて下（袋）が見えなくても大丈夫です。緑の葉の上から、全体にパラパラと薄く振りかけるように散布してください。

#### 3. 葉に少しくらい乗っても大丈夫

使用する肥料は（8，8，8）以下の肥料を使用します。多少葉の上に乗っても、植物へのダメージはほとんどありません。

#### 4. 雨や水やりで自然に届く

散布された肥料は、その後の雨によって自然に株と株の間に落ちていきます。土に届いた肥料は、ゆっくりと分解されて根に吸収されるので安心してください。

### 散布量の目安

・1 m<sup>2</sup>あたり：25～50g（「一握り」がおおよそ 50g の目安です。1 m<sup>2</sup>に袋が 4 枚ある場合、1 袋あたり 6.25～12.5g 程度になります。）

### 肥料についてのご注意

マニュアルに掲載している肥料の写真は、あくまでも散布方法のイメージを分かりやすくするための一例です。写真と同じ肥料を必ずしも使用する必要はありません。

ホームセンターなどで手軽に購入できる、肥料（8，8，8）以下であれば問題なくお使いいただけます。ご自身の環境や好みに合わせて肥料をお選びください。



チッソ：リンサン：カリ=6：6：6



チッソ：リンサン：カリ=8：8：8

## 17.肥料散布の重要ポイントと避けるべき時期

常緑キリンソウ袋方式で肥料をあげる際は、効率良く栄養を届け、トラブルを避けるためにいくつかの注意点があります。特に、「いつあげるか」と「どうあげるか」が大切です。

### 肥料をあげる際の注意点

肥料の効果を最大限に引き出し、植物に負担をかけないためのポイントです。

#### ・風のない日を選びましょう

肥料は軽いため、風が強い日に撒くと飛び散ってしまい、均一に散布できません。肥料が無駄になるだけでなく、本来肥料が必要ない場所にまで飛んでいってしまう可能性があります。無風～微風の日を選んで作業するのがベストです。

#### ・翌日が雨の日を狙うのがおすすめです

肥料を撒いた翌日に雨が降ると、雨水が肥料を土に自然と馴染ませてくれます。これにより、肥料成分が効率よく根に届きやすくなり、より効果的です。

#### ・高温多湿の日は避けましょう

ぼかし肥料自体に強い臭いはありませんが、気温が高く湿気も多い日に散布すると、肥料の分解が活発になり、一時的に不快な臭いが発生することがあります。快適に作業するためにも、これらの日は避けるのが賢明です。

### 肥料をあげてはいけない時期とその理由

植物が肥料をうまく吸収できない時期や、かえってトラブルの原因になる時期があります。屋上緑化の常緑キリンソウでは、以下の時期の施肥は避けてください。

#### 真夏（7月～8月頃の特に暑い時期）

##### ・植物が夏バテ中

常緑キリンソウは暑さに強いとはいえ、真夏の猛暑が続くと生育活動が鈍り、根の働きも弱まります。この時期に肥料をあげても、植物はうまく栄養を吸収できません。

##### ・「肥料焼け」のリスク大

暑い時期は土の中の肥料濃度が高まりやすくなります。植物が肥料を吸収できない状態で高濃度だと、根の細胞から水分が奪われ、根が傷んだり枯れたりする\*\*「肥料焼け」\*\*を起こしやすくなります。高度化成肥料は使用しないでください。

##### ・ニオイと虫の問題

高温多湿の環境では有機肥料の発酵が進み、独特なニオイが強くなることがあります。これがコバエなどの害虫を誘引する原因となる可能性もあります。

## 18.Q&A 集（常緑キリンソウ袋方式）

常緑キリンソウ袋方式に関して、設置後によく寄せられるご質問をまとめました。維持管理のポイントやちょっとした疑問など、実際の現場で多くの方が気になる内容にお答えしています。ご活用の際の参考にぜひご覧ください。

### Q1. 常緑キリンソウが密に繁茂している場所に立ち入ることはできますか？

A1. 苗の上を直接歩くと、葉や茎が踏まれて一時的に傷みますが、時間が経てば元に戻るほどの強い生命力があります。ただし、維持管理の際には苗をできるだけ踏まないよう、袋と袋の隙間を選んで歩くことをおすすめします。

### Q2. 常緑キリンソウは 11 月～12 月頃に新芽に生え替わると聞きましたが、古い葉は掃除したほうがいいですか？

A2. 古い葉は自然に枯れていき、そのままでも問題ありません。やがて土に還り、肥料分として役立ちます。さらに、枯れ葉や自然に生えるコケは袋の表面を覆い、紫外線による劣化を防ぐ効果もあります。

### Q3. 肥料を与える際に、袋のファスナーを開けて中に入れる必要はありますか？

A3. いいえ、ファスナーを開ける必要はありません。肥料は苗の上から全体にまんべんなくパラパラと薄く振りかけてください。使用する肥料は成分が「8-8-8 以下」のものをご使用ください。雨の前日に施肥すると、雨により肥料が自然と株元に行き渡りますので効果的です。

### Q4. 袋に植えた常緑キリンソウが一部枯れてしまいました。袋ごと交換する必要がありますか？

A4. 一部の苗が枯れた場合、袋ごと交換する必要はありません。枯れた苗だけを取り除き、新しい苗を補植してください。ただし、夏の高温期は苗が根付きにくいいため、補植には 3 月頃の涼しい時期がおすすめです。

### Q5. 袋の素材は紫外線で劣化し、2～3 年で使えなくなるのでしょうか？

A5. 使用している袋は、耐候性のある不織布で作られており、屋外暴露試験では 10 年以上の耐久性が確認されています。実際には、常緑キリンソウが袋全体を覆うことで紫外線の影響が大きく軽減されます。なお、2010 年に施工された事例でも、現在まで袋に問題は見られていません。

### Q6. 常緑キリンソウ袋方式は雑草対策がされていると聞きましたが、それでも雑草は生えますか？

A6. はい、生えることがあります。雑草の種は風や鳥によって運ばれてくるため、完全に防ぐのは難しいです。特に袋と袋のすき間などに雑草が生えることがあります。袋の下は土がないため根が浅く、簡単に抜き取ることができます。

### Q7. 袋方式で雑草が生えても、そのままにしておいても大丈夫ですか？

A7. いいえ、そのままにせず、見つけたら早めに抜きましょう。放置すると雑草が広がり、常緑キリンソウの生育に悪影響を与えることがあります。簡単に抜けるので、定期的に確認してお手入れすることで、美しい状態を保つことができます。

**Q8. 水やりは必要ですか？**

**A8.** 基本的には雨水だけで十分に育ちます。ただし、2 カ月以上雨が降らず極端に乾燥している場合は、水やりをしてください。特に設置直後は、最初に十分に散水することが大切です。また、設置初期や補植後は根がまだ十分に張っておらず、乾燥に弱いため、こまめに状態を確認しながら管理してください。

**Q9. 夏に葉が落ちて茎が見えている部分があります。このまま枯れてしまうのでしょうか？**

**A9.** ご安心ください。常緑キリンソウは蒸れを防ぐために、自ら葉を落として風通しを良くする性質があります。一時的に見た目が寂しくなることもありますが、涼しくなる時期まで様子を見ていただければ、また元気に戻ることがほとんどです。

**Q10. 常緑キリンソウは刈り込む必要がありますか？**

**A10.** 特別な刈り込みは必要ありません。常緑キリンソウは 11 月～12 月にかけて新芽と自然に入れ替わることで、草丈がリセットされ、高さが保たれる仕組みになっています。

**Q11. 秋ごろ、全体的に黄色くなってきました。これは枯れてしまうのでしょうか？**

**A11.** 黄色くなるのは、新芽への入れ替えのサインです。11 月～12 月ごろには株元に新しい芽が出てきます。これは正常な生育サイクルの一部で、春には再び全体が緑に覆われますので心配ありません。

**Q12. 虫がつくことや病気になることはありますか？**

**A12.** 常緑キリンソウは病害虫に強い植物ですが、ごくまれに虫がつくことがあります。特に、キリンソウに卵を産みつけられた幼虫が最初に食べる植物として選ばれた場合に、食害が発生する可能性があります。ただし、これまで大きな被害はほとんど報告されていません。虫を見つけた場合は、早めに取り除くか、市販の薬剤をご使用ください。

## 19.最後に

### 1. ご利用にあたってのご注意

本マニュアルは、一般的な維持管理の目安を示すものであり、すべての現場や状況において完全に適用できるとは限りません。

各現場の特有の環境条件や課題に応じた対応が必要となる場合がありますので、必要に応じて施工業者又は専門業者へご相談ください。

### 2. 【ご注意（管理対象外となる場合について）】

以下のような事象が発生した場合は、通常の維持管理の範囲外となるため、補償や再施工の対象とならないことがあります。あらかじめご了承くださいませよう願いたします。

1. 地震、台風、水害等の天災・自然災害、異常気象、火災などによる被害
2. 30度を超える時期の植栽により植物が枯れた場合
3. 高温時に散水を行い、植物に障害が生じた場合
4. 散水時にホース内の水温を確認せずに高温水を散水したことによる障害  
※ 散水前に30秒～60秒程度放水し、水温が常温に戻ったことを確認してください
5. 第三者による工事、または故意・過失による人為的要因による損傷
6. 動物や虫による被害（糞尿、踏み荒らし、食害など）
7. ハスモンヨトウ等の害虫による食害
8. 屋上周辺的环境変化（建築物新設など）により日照・通風等が悪化し、生育に支障が生じた場合

屋上緑化を始める前に観ておきたい

# 屋上緑化を 比較実験する

常緑キリンソウ袋方式<sup>®</sup> vs 従来型システム



常緑キリンソウ袋方式の特徴が分かる動画  
YouTube  
QRコード読み取りで動画を再生



 緑化計画研究所  
Green Planning Laboratory Inc.

**【お問い合わせ先】**

株式会社緑化計画研究所

〒232-0072 神奈川県横浜市南区永田東 2-27-17

TEL : 045-326-6587 FAX : 045-326-6588

<https://kirinsou.jp/>

<https://www.gplabo.co.jp/>

受付時間 平日 9:00~17:00 (土日、祝日、定休日などを除く)